

2017年度の資金運用方針、運用管理体制について

2016年度の結果を踏まえ、基本的にはその方針を継承しながら①分散投資、②リスク・リターンの管理・運営体制の充実を目指して、慎重かつ着実に進めてまいりたいと考えております。今後も、ご理解と一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

1 資金運用の目的

運用益（利息・配当金収入＋有価証券売却損益）は、本学の給付奨学金など、様々な基金事業による事業費に充当する。

2 資金運用の基本方針

- (1) 有価証券運用限度額は、一定流動性資金を確保した後の範囲内とする。
- (2) ミドルリスク・ミドルリターンの運用を含め、分散投資（国内・外国債券、国内・外国株式）を行う。
- (3) 当面の運用目標は、1.0%程度とする。
- (4) リスク・リターンを考慮した管理体制の充実を図る。

3 リスク管理について

有価証券ごとのリスク管理ルールに基づき具体的な運用を行う。また、必要があれば早急にリスク管理ルールの見直しを行う。

4 2017年度の資金運用方針、運用管理体制の骨子

- (1) 2017年度末想定ポートフォリオは次のとおりとする。

資産区分	現預金	国内債券	外国債券	国内株式	外国株式	その他(仕組債)	合計
資産配分	55%	30%	8%	1%	1%	5%	100%
乖離幅	—	±2%				—	

- (2) 基本方針を踏まえ、当年度の運用目標は1.0%程度とする。
- (3) 債券運用に関しては、本学の中長期事業計画に応じ運用期間の組み合わせを勘案する。
- (4) 「資金運用委員会」及び「資金運用小委員会」の下で、運用方針の策定を行い、それに基づいて実行し、その内容を評価・管理する一連のチェック体制を充実する。

※2016年10月発足の現理事会においては、これまでの資金管理小委員会の役割・機能を、資金運用委員会及び資金運用小委員会が担うことになりました。

以上